

【解答例】

第1問

7世紀には仏教の受容が進む中、渡来系氏族の活動や朝鮮半島との通交を通じて仏像・絵画様式などの形式的な受容が進んだ。8世紀に入ると律令国家の確立に伴い遣唐使の定期的な派遣が始まり、入唐した僧侶や来日した唐の高僧らによって大陸の仏教理論などのより理念的な面での受容が進み、在来の仏教のあり方が見直された。

第2問

土一揆は惣村を主体としたものであり、本来幕府は惣村の自治を担った指導者を通じて、一揆の参加者の処罰や、住民の一揆参加の防止を図った。しかし、同じ惣村の住民であっても、守護と主従関係を結ぶ地侍が土一揆に関係する場合は、幕府は守護に対して、一揆の参加者の処罰や、地侍の一揆参加の防止を命じる必要があった。

第3問

A大坂の豊臣秀頼や西国の有力大名を牽制するため、東海道沿いに譜代大名を配置して兵の動員に備えさせ、伝馬制度を整えて江戸への連絡の迅速化を図るなど、軍用道路としての活用が考えられた。

B家康の頃は大名個人の将軍への服属を示すものであったが、戦乱が収まると幕府と藩の主従関係を示すものと捉えるようになった。

第4問

A西洋とは音楽の性質を異としていた日本には、唱歌を理解し実践するだけの文化的素地がなく、指導者や教材を用意できなかった。

B日本の対外進出に伴い国家主義化が進む中で、教育行政においても唱歌に愛国心育成の役割が期待されるようになり、また西洋の音楽理論を学んだ日本人が自ら唱歌を制作できるようになっていた。